

# 山口拳矢はトップスピードまでの速さを武器に 暮れのグランプリを射程圏に入れた



昨年デビューした、スピード競輪の申し子みたいな117期生。寛仁親王牌には山口拳矢（岐阜）、石原颯（香川）、菊池岳仁（長野）の3人が参戦する。

地元のGⅡ・共同通信社杯を獲得した山口拳矢。決勝の前に何度もシミュレーションしたが、新田祐大の2段駆けを、さらにまくってしまいうイメージは1回も描けなかったと言う。他人の動きを当てにした部分はあったが、単騎のレースを、2コーナーからのまくりで仕留めた。

3代続く競輪一家。覚えてないくらい小さいときに競輪と出合っ  
てはいるが、選手になろうと思っ  
たのは大学3年のとき。将来やり  
たいこともなく、サラリーマンも  
イメージできない。「どうしても  
選手になりたいとかはなかったで  
す。ほかの人に比べたら、意識は  
低かったと思います」。寝ること、  
ファッション、お菓子（味が濃い  
のが好み）、麺類、牛肉の赤身が

好きな彼。デビューして1年3カ  
月でGⅡの覇者になった。

諸橋愛がこんな話をしてくれ  
た。8月のオールスターの最終日。  
山口が単騎の競走で、外併走から  
まくって勝ったレースがあった。  
諸橋が1コーナーと2コーナーで  
山口を外へ持っていったのに、い  
ずれもしのいだ。「いなすから、  
しつかり当たれない。デビューし  
て1年少しの選手なのに、すごい  
センスですよ」と感心していた。  
ラインで決めるレースが少ない  
という声を聞くが、「後ろのため  
とか、ラインで決められる余裕が  
ないからです。本当に自分が勝つ  
ので精一杯」。すごい負けず嫌  
いと自らを評する。「でも構えすぎ  
るところがあるんで、力でいける  
ところはいかないとダメですね」。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント

それいけ117期 第1話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

